



第48期報告書
2010.04.01-2011.03.31



Aoi Advertising Promotion Inc.

私たちは映像制作を通じ、
すべての人々と喜びを分かち合い、
ひろく経済、情報、文化に貢献する
企業をめざします。

Dream & Happiness



2011年5月 大崎センタービル 本社新社屋エントランスにて

ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年3月に発生いたしました東日本大震災により、被災されました株主の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

ここに当社第48期の事業の概況につきましてご報告申し上げます。

私は昨年4月に当社の社長に就任し、「広告映像制作における業界シェア拡大のための営業力・技術力強化とクロスメディアに対応できる人材・グループ会社の育成」、「これまでのノウハウをフル活用した映像制作領域の拡大」、「われわれの創造力と異業種とのコラボレーションによる新規ビジネスの開発」の3つを事業戦略として掲げ取り組んでまいりました。

その結果、当連結会計年度のグループ業績につきましては、売上高は増収となり計画を達成し、利益面では、解散を決定した当社持分法適用会社の持分法投資損失および同社より承継したリース資産の減損損失等により当期純利益は減益となったものの、営業利益・経常利益は増益となり、営業利益については過去最高水準を計上いたしました。

また、当社グループ初のBtoC事業として㈱ホリーホックにおける東京ミッドタウンへの「写真スタジオhollyhock」出店、東南アジアでの広告映像制作需要に対応するためのインドネシア・ベトナムへの現地法人設立決定、ソーシャルアプリの開発・リリース、週刊「パーゴルフ」を発行する㈱パーゴルフの子会社化など、今後の事業領域の拡大に向けた足がかりを作ることができました。

わが国経済の先行きに関しては不透明感が強い状況がありますが、当社グループが今後も着実に成長し、永続的に発展する企業であり続けるため、リスクを見極めつつも、引き続き、勇気を持って新たなことにチャレンジしてまいりますので、ご期待いただければと思います。

私たちは「株主利益の増大を図る」とともに、「取引先、社員、地域社会等すべてのステークホルダーに満足される共益的利益を維持・向上する」ことが最大の使命であると考え、コンプライアンスを重視し、迅速で適切な意思決定と公正で透明性の高い事業運営を行い、すべてのお客さまのニーズに高いレベルで対応することにより、すべての人々と喜びを分かち合い、ひろく経済、情報、文化に貢献する企業を目指します。

株主の皆様には、今後とも一層の力強いご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長



株主の皆様へ

〈当社グループの経営成績について〉

当連結会計年度におけるわが国の経済は、海外経済の減速や国内の政策効果剥落の影響により、昨年後半は景気が一時的に停滞する「踊り場」の状況にあったものの、米国や中国を中心とする海外経済の持ち直しや、IT分野の在庫調整の進展を背景に、年明け以降は「踊り場」を脱し、緩やかに回復していました。しかしながら、足元は東日本大震災の影響で大幅に落ち込んでおります。

こうしたわが国経済の動きを反映し、広告需要は底を打ったものの、大きく回復するには至っておりませんが、その中で、当社が主力とするテレビコマーシャルの需要は、引き続き、メディアの新しい展開による広告媒体の多様化の影響を受けながらも、回復基調を維持しております。

このような環境の中にありまして、当社グループでは、前連結会計年度に引き続き、グループ全体の営業体制強化に努める一方で、制作原価率の抑制、コストの削減等により収益力を強化し、全社を挙げてより一層の業績の改善に努めてまいりました。

こうした取り組みにより、当社の当連結会計年度における売上高は、前連結会計年度を上回り計画を達成いたしました。利益についても、営業利益、経常利益は、計画を上回り前連結会計年度比大幅な増益となりました。しかしながら、当期純利益は、当社持分法適用会社に係る投資有価証券の評価損、貸付金に対する貸倒引当金の繰入、および同社より承継したリース資産の減損損失を特別損失に計上したことから、前連結会計年度を下回りました。

また、子会社の業績についても総じて改善しており、(株)ワサビと(株)ホリーホックを除く全社が前連結会計年度比、売上高・利益ともに増収増益となりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高159億8千9百万円（前連結会計年度比112.8%）、営業利益14億7千9百万円（前連結会計年度比167.5%）、経常利益9億5千1百万円（前連結会計年度比159.8%）、当期純利益3億6千万円（前連結会計年度比75.9%）となりました。

〈セグメント別の業績について〉

①広告制作事業

当社の主力事業であり、グループ全社を挙げた営業体制強化と収益力強化の取り組みにより、当連結会計年度の広告制作事業の売上高は159億7千3百万円、セグメント利益は15億4千8百万円となりました。

②写真スタジオ事業

平成22年6月、当社連結子会社(株)ホリーホックにて、コンシューマー向け写真館運営事業および全国の写真館に対する販売促進支援を行う「写真スタジオ事業」を開始することを決定し、平成22年9月、東京ミッドタウンに「写真スタジオhollyhock」第一号店をオープンさせました。

現状、創業赤字の状態ですが、早期の黒字化を目指して積極的に事業を推進しており、当連結会計年度の写真スタジオ事業の売上高は1千6百万円、セグメント損失は1億2千9百万円となりました。

③情報流通事業

情報流通事業を行う(株)タクサシステムズは、平成22年12月27日に開催した同社臨時株主総会にて解散を決定し、平成23年3月28日に特別清算手続開始の申立済みであり、当連結会計年度の情報流通事業のセグメント損失は4億6千6百万円となりました。なお、(株)タクサシステムズは当社持分法適用会社であり、連結損益計算書の持分法投資損失のみ計上しております。

CM特集

TV Commercials

アサヒ飲料 ワンダ モーニングショット
「朝のあいさつ」



Aoi Advertising Promotion Inc.

NTTドコモ 応援学割
「操縦女子」



Aoi Advertising Promotion Inc.

資生堂 エリクシール シュベリエル
「ハリマドンナ冬」



Aoi Advertising Promotion Inc.

パナソニック 3D VIERA
「黒髪」



Aoi Advertising Promotion Inc.

〈次期の見通し〉

今後のわが国経済は、東日本大震災の影響で2011年度前半の景気は下振れが避けられそうもないものの、海外経済は当面、回復を続けるとみられること、年度後半にかけては官民双方で復興需要が顕在化してくるとみられることから、実質GDP成長率は、2011年度前半に落ち込んだ後、後半は押し上げられる展開が予想されます。しかしながら、先行きに対する不透明感は

強く、下振れリスクも大きいと言わざるを得ません。

今後の広告需要につきましても、こうしたわが国経済の動きを反映して不透明感が強い状況であります。一方で、本年4月1日に当社連結子会社となった(株)パーゴルフの売上高は17億円程度を見込んでおります。

以上により、通期の連結業績の見通しにつきましては、以下を予想しております。

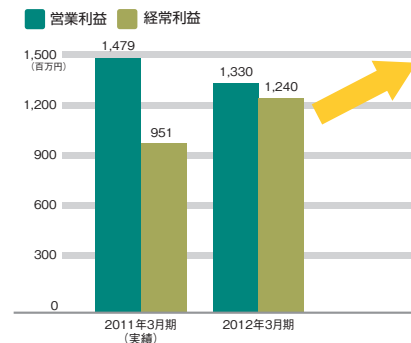
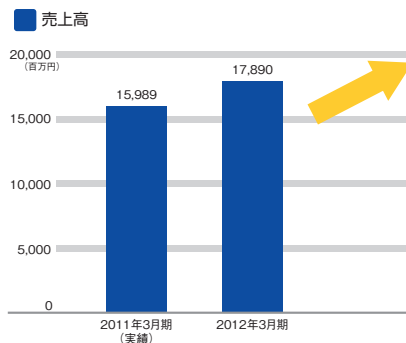
	連 結	前期比
売 上 高	178億9千万円	11.9%増
営 業 利 益	13億3千万円	10.1%減
経 常 利 益	12億4千万円	30.3%増
当 期 純 利 益	4億7千万円	30.2%増

経営目標

当社グループは中期経営目標として、

- 1：グループ総売上高 190億円以上
- 2：1株当たりの当期純利益 50円以上
- 3：株主資本当期純利益率（ROE） 7%以上

を掲げております。



三菱東京UFJ銀行
お金のことなら、三菱東京UFJ銀行
「気付く春馬君」



本田技研工業 キャンペーン
「ユーザー (ステップワゴン)」



ハウス食品 こくまるカレー
「あめたまアップこくアップ」



サッポロビール シルクエアビス
「新しい二人」



葵プロモーショングループのご紹介



当社の事業戦略

- 1 主力であるテレビCM、WEBコンテンツ等広告映像制作における業界シェア拡大のための、営業力・技術力強化とクロスメディアに対応できる人材・グループ会社の育成。
- 2 これまで培ってきた映像制作に関わるノウハウをフル活用することによるビジネス領域の拡大。
- 3 われわれの財産である創造力を異業種とコラボレーションさせることで生まれる新規ビジネスの開発。

CM特集

TV Commercials

ソニーマーケティング デジタルスチルカメラ
Cyber-shot "サイバースョット" [沖縄旅行]



Aoi Advertising Promotion Inc.

カゴメ 野菜生活 100 Silky Soy
[犬とくつろぐ]



Aoi Advertising Promotion Inc.

公益社団法人ACジャパン
地域キャンペーン (東京地域)
[こだまでしょうか]



Aoi Advertising Promotion Inc.

SOUR PV
[映し鏡]



Aoi Advertising Promotion Inc.

葵プロモーショングループの事業紹介



株式会社 メディア・ガーデン

横浜市港北ニュータウンの一角に立つ、世界でも最高水準の設備を持つCM撮影スタジオ。約2,000坪の敷地に、撮影規模や用途に応じて選べる3タイプのスタジオを有する。2006年からは照明機材のレンタル業務も行っている。



株式会社 エムズプランニング

企業や団体、地域のコミュニケーション活動など、世の中に新しいプロモーションを提案・創造する会社。

lenovo japan
lenovo屋内外広告 (2010年11月)

株式会社 デジタル・ガーデン

ポストプロダクション部門は11編集室/2MALームを完備、さらにサテライトオフィスにはCGI部門を構える。オンライン・オフラインの垣根がない新設の編集室では、独占契約を結ぶ米国のCompany3社が誇る世界のトップカリストによる「リモート・テレシネ」をリアルタイムで共有できる日本で唯一のサービスが好評である。



株式会社 シースリーフィルム

特に外資系クライアントなどを得意とする、グローバルに対応したトータル設計が可能な映像制作会社。

競艇振興センター Boat Race 2011
「登場」



株式会社 葵デジタルクリエイション

新しい技術と表現で、未来の広告を、社会を、そして何よりも人の心を動かすデジタル関連の総合企画制作会社。

マツダ ATENZA
「ATENZA SPECIAL SITE 出逢い」



株式会社 ホリーホック

写真スタジオ事業として東京ミッドタウンにオープン。映像、広告制作のノウハウを盛り込んだ新しいタイプの写真スタジオ。

商標登録商品
「グラフィック」

株式会社 ワサビ

様々なクライアントニーズに的確に対応するために、機動力を活かしながら高いクリエイティブを常に提供する総合映像制作会社。

三菱電機 ユニ&エコチェンジ!
「らく楽アシスト総合」



グループ情報

Topics

株式会社 パーゴルフ



2011年4月1日付で、ゴルフに関わる出版・広告・オンライン事業会社(株)パーゴルフ・プラスを株学研パブリッシングからの株式取得により子会社化し、(株)パーゴルフに社名変更した。長年培われてきた「週刊パーゴルフ」のブランド力と編集力に、当社のデジタル映像制作技術、エンタテインメントコンテンツ制作ノウハウと創造力を加えることにより、デジタル化時代にマッチしたオンライン事業も強化。多くのゴルフファンへのより利便性が高いゴルフ総合サービスの提供を目指している。

AOI ASIA



現在提携関係にある海外の映像制作会社(オーストラリア・シドニー、中国・北京および上海)との協力による海外での広告映像制作需要への対応に加え、東南アジアでのニーズの高まりに対応するため、東南アジアの主要都市に現地法人として「AOI ASIA」を随時設立予定。まずはインドネシア(ジャカルタ)、ベトナム(ホーチミン)の2拠点からスタートし、今後はタイ(バンコク)などへの展開も検討中。これにより葵グループとしてアジアにおけるクオリティの高い広告映像制作体制の強化を目指す。

※著作権保護のため作品画像のWEB掲載はしていません
Aoi Advertising Promotion Inc. 6

連結財務諸表

連結貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

科目	期別	当期 (平成23年3月31日現在)	前期 (平成22年3月31日現在)
(資産の部)			
1 流動資産		10,010,801	8,872,227
固定資産		7,199,968	6,855,419
有形固定資産		5,074,988	4,888,293
無形固定資産		195,858	245,827
投資その他の資産		1,929,122	1,721,298
資産合計		17,210,770	15,727,646
(負債の部)			
1 流動負債		5,346,886	4,182,028
固定負債		2,448,720	2,324,499
負債合計		7,795,607	6,506,528
(純資産の部)			
株主資本		9,149,943	9,028,092
資本金		3,323,900	3,323,900
資本剰余金		3,944,055	3,944,754
利益剰余金		2,810,838	2,688,567
自己株式		△ 928,851	△ 929,129
その他の包括利益累計額		4,710	19,496
新株予約権		51,218	37,437
少数株主持分		209,290	136,092
純資産合計		9,415,162	9,221,118
負債及び純資産合計		17,210,770	15,727,646

連結損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

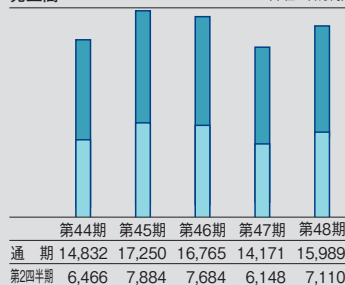
科目	期別	当期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	前期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)
2 売上高		15,989,874	14,171,554
売上原価		12,743,470	11,629,055
3 売上総利益		3,246,404	2,542,498
販売費及び一般管理費		1,767,291	1,659,374
営業利益		1,479,112	883,123
営業外収益		52,259	55,495
4 営業外費用		579,719	343,230
経常利益		951,652	595,389
5 特別利益		49,691	373,340
5 特別損失		303,987	73,442
税金等調整前当期純利益		697,357	895,287
法人税、住民税及び事業税		497,475	262,193
法人税等調整額		△ 239,561	114,060
少数株主利益		78,560	43,333
当期純利益		360,882	475,701

財務ハイライト (連結)

■ 第2四半期 ■ 通期

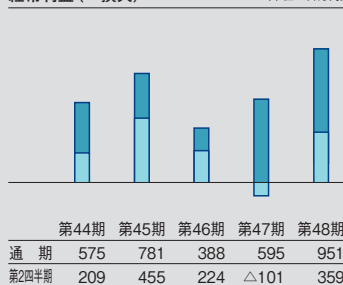
売上高

(単位：百万円)



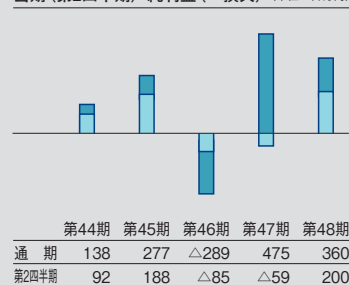
経常利益 (△損失)

(単位：百万円)



当期 (第2四半期) 純利益 (△損失)

(単位：百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：千円）

科目	期別	当期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	前期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)
	6 営業活動による キャッシュ・フロー		646,821
投資活動による キャッシュ・フロー		△ 825,003	△ 302,355
財務活動による キャッシュ・フロー		170,837	△ 1,450,047
現金及び現金同等物に 係る換算差額		△ 319	△ 161
現金及び現金同等物の 増減額		△ 7,663	648,794
新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額		1,517	—
現金及び現金同等物の 期首残高		2,233,176	1,584,382
現金及び現金同等物の 期末残高		2,227,030	2,233,176

POINT 1 流動資産及び流動負債の増加は、主に売上高の増加に伴う売上債権や仕入債務の増加によるものです。

POINT 2 売上高の増加は、テレビコマース需要が回復基調を維持したことに加え、グループ全体の営業体制強化に努めたことにより、当社を含め株ワサビを除く全社が増収となったことによるものです。

POINT 3 売上総利益の増加は、売上高の増加に加え、引き続き、制作原価率の抑制、コストの削減に努めたことによるものです。

POINT 4 営業外費用の増加は、主に解散を決定した当社持分法適用会社の持分法投資損失の増加によるものです。

POINT 5 特別利益・特別損失の増減は、主に、当期において持分法適用会社より承継したリース資産の減損損失が特別損失に、また、前期において子会社の事業譲渡益と貸倒引当金戻入額が特別利益に計上されていることによるものです。

POINT 6 営業活動によるキャッシュ・フローの減少は、主に、利益が増加する一方で、前期は売上債権が減少していたのに対し、今期は売上高の増加に伴い売上債権が増加したことによるものです。

連結株主資本等変動計算書（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）

（単位：千円）

	株主資本					その他の包括利益累計額		新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計			
前期末残高	3,323,900	3,944,754	2,688,567	△ 929,129	9,028,092	19,496	19,496	37,437	136,092	9,221,118
当期変動額										
剰余金の配当			△ 237,184		△ 237,184					△ 237,184
当期純利益			360,882		360,882					360,882
連結範囲の変動			△ 1,426		△ 1,426					△ 1,426
自己株式の取得				△ 980	△ 980					△ 980
自己株式の処分		△ 698		1,258	560					560
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						△ 14,785	△ 14,785	13,781	73,198	72,193
当期変動額合計	—	△ 698	122,271	278	121,850	△ 14,785	△ 14,785	13,781	73,198	194,044
当期末残高	3,323,900	3,944,055	2,810,838	△ 928,851	9,149,943	4,710	4,710	51,218	209,290	9,415,162

単体財務諸表

単体貸借対照表（要旨）

（単位：千円）

科目	期別	当期	前期
		(平成23年3月31日現在)	(平成22年3月31日現在)
（資産の部）			
流動資産		7,802,449	7,143,667
固定資産		6,609,370	6,616,462
資産合計		14,411,820	13,760,130
（負債の部）			
流動負債		3,723,393	2,888,282
固定負債		1,984,490	2,036,416
負債合計		5,707,883	4,924,699
（純資産の部）			
株主資本		8,648,007	8,778,497
資本金		3,323,900	3,323,900
資本剰余金		3,944,055	3,944,754
資本準備金		830,975	830,975
その他資本剰余金		3,113,080	3,113,779
利益剰余金		2,308,902	2,438,972
その他利益剰余金		2,308,902	2,438,972
別途積立金		2,185,000	2,185,000
繰越利益剰余金		123,902	253,972
自己株式		△ 928,851	△ 929,129
評価・換算差額等		4,710	19,496
その他有価証券評価差額金		4,710	19,496
新株予約権		51,218	37,437
純資産合計		8,703,936	8,835,431
負債及び純資産合計		14,411,820	13,760,130

単体損益計算書（要旨）

（単位：千円）

科目	期別	当期	前期
		(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)	(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)
売上高		10,823,919	9,560,807
売上原価		8,967,934	8,285,074
売上総利益		1,855,985	1,275,733
販売費及び一般管理費		931,587	873,619
営業利益		924,397	402,113
営業外収益		250,877	250,607
営業外費用		181,184	177,379
経常利益		994,091	475,342
特別利益		24,729	248,680
特別損失		849,876	47,944
税引前当期純利益		168,944	676,077
法人税・住民税及び事業税		298,869	156,387
法人税等調整額		△ 237,040	101,590
当期純利益		107,114	418,100

単体株主資本等変動計算書（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）

（単位：千円）

	株主資本								評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金	利益剰余金合計							
前期末残高	3,323,900	830,975	3,113,779	3,944,754	2,185,000	253,972	2,438,972	△ 929,129	8,778,497	19,496	19,496	37,437	8,835,431
当期変動額													
剰余金の配当						△ 237,184	△ 237,184		△ 237,184				△ 237,184
当期純利益						107,114	107,114		107,114				107,114
自己株式の取得								△ 980	△ 980				△ 980
自己株式の処分			△ 698	△ 698				1,258	560				560
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）										△ 14,785	△ 14,785	13,781	△ 1,004
当期変動額合計	-	-	△ 698	△ 698	-	△ 130,069	△ 130,069	278	△ 130,490	△ 14,785	△ 14,785	13,781	△ 131,495
当期末残高	3,323,900	830,975	3,113,080	3,944,055	2,185,000	123,902	2,308,902	△ 928,851	8,648,007	4,710	4,710	51,218	8,703,936

会社の概況

(平成23年3月31日現在)

商号	株式会社 葵プロモーション
設立	昭和38年10月25日
資本金	3,323,900千円
従業員	232名(葵グループ440名)
主要な事業内容	テレビコマーシャルの企画及び制作を主に、映像制作及びこれらに付帯する業務
主要な事業所	本社 東京都品川区 支店 米国カリフォルニア州カラバサス オフィス 新橋(東京都中央区) 赤坂(東京都港区) スタジオ 神奈川県横浜市都筑区 編集スタジオ 東京都渋谷区

本社移転のお知らせ

葵プロモーションは、効率的なオフィス環境整備のため、2011年5月30日に本社を大崎センタービル(東京都品川区大崎一丁目5番1号)へ移転いたしました。



取締役及び監査役

(平成23年6月28日現在)

代表取締役社長	藤原 次彦
専務取締役	八重樫 悟
常務取締役	笹貫 善雄
常務取締役	中江 康人
常務取締役	譲原 理
取締役	本多 俊也
取締役	小甲 則夫
取締役	小形 浩隆
常勤監査役	斉藤 博
監査役	湯佐 富治
監査役	柴田 芳治
監査役	高田 一毅

(注) 監査役湯佐富治、監査役柴田芳治及び監査役高田一毅の3氏は、社外監査役であります。

株式の状況

(平成23年3月31日現在)

発行可能株式総数	38,000,000株
発行済株式の総数	13,334,640株
	(自己株式 1,476,108株を含む)
株主数	2,758名

大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社コスモチャンネル	1,312	11.0
株式会社イマジカ・ロボットホールディングス	1,000	8.4
松本 洋一	575	4.8
原 仁	461	3.8
原文子	328	2.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	307	2.5
葵プロモーション従業員持株会	274	2.3
株式会社オムニバス・ジャパン	220	1.8
株式会社テーオーシー	202	1.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	183	1.5

(注) 1. 当社は、自己株式1,476,108株を保有しておりますが、上記大株主からは、除外しております。また、持株比率については、自己株式を控除して算出しております。
2. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)と日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の持株数は、全て信託業務に係る株式数であります。

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年の3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月に開催いたします。
- 単元株式数 500株
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当 毎年3月31日
中間配当の支払いを行うときは9月30日といたします。
- 公告方法 電子公告の方法により行います。
公告掲載URL (<http://www.aoi-pro.com/>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします。
- 株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
フリーダイヤル (0120) 232-711
- 上場証券取引所 東京証券取引所

(ご注意)

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式会社 葵プロモーション

〒141-8580 東京都品川区大崎一丁目5番1号

TEL (03)3779-8000 (代表)

www.aoi-pro.com

